

門へ遠 43 册  
 編 2257  
 卷 15



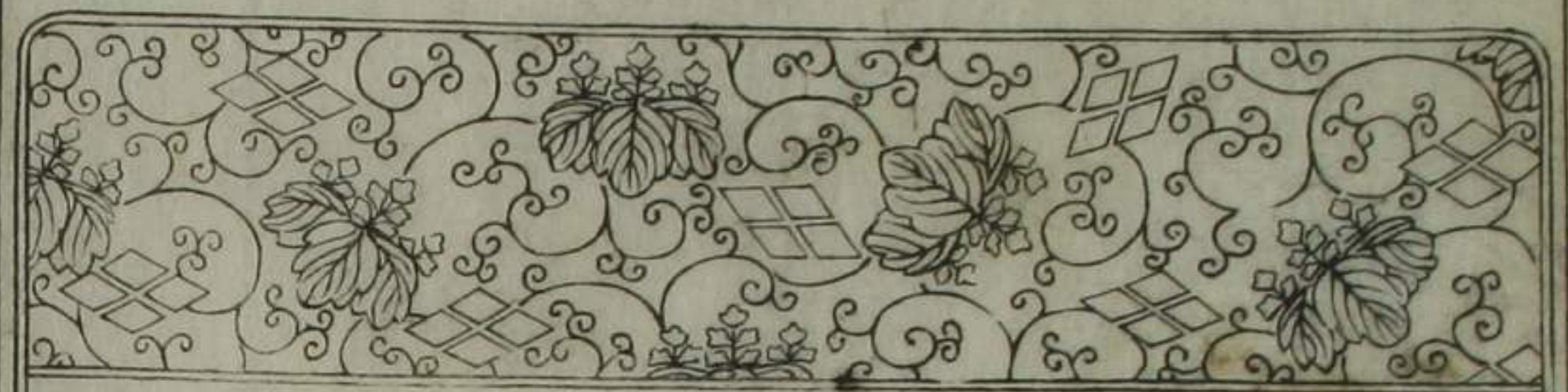
繪本列戰功記後篇卷之三

目録

- 武房戸取山合戦之事
- 小山田信茂破北条勢圖
- 武田勢攻瀧山之城之事
- 武田勢攻入於小田原事 并初麻傳右門武勇之事
- 初麻傳在門酒匂川先陣之圖
- 北条氏安小田原龍城之事
- 小田原合戦之事 先馬場信房智畧之事

待方  
 武房  
 武田  
 北条  
 小山田  
 初麻傳  
 馬場

武田勝頼殿武勇之圖



繪本烈戰功記後編卷之三

武州戸取山合戦事

甲斐郡岡部の城代。小山田たき信尉佐治の。佐云より一子の  
の將將と令せし。是小依て。並小部内の勢と掃。其  
出波の唯依とぞなりける。抑這小山田の。武田家小依  
殊又由緒の家とて。代武勇忠徳とあり。其  
得たるが。今の武衛小部とて。尚家教と落さる。佐云尚年  
廿七才と云ども。智勇兼備と踰。頗忠志と懐の勇士  
なり。されば。今度敵必又乱入の事。佐云一世の経戦する  
なげまは。身命と抱て軍忠と抽んと云定て。先富士  
間大菩薩小。頗書とぞ記する。其文小曰



敬白祈願事

右之意趣者。甲相兩州之辜負。追日令增々。和親不知其期。故我國太守信玄公。催分國軍勢止嫌疑。捨猶豫。任運於天道。拖身於義路。責順關東諸士。直到相府。動干戈。遂興亡合戰。被欲散累日鬱憤。因茲徑武上兩國。被擊碎

此如  
五字  
四入

小田原之裡。為本國堅固備。都留郡軍士。各暫被殘鴻溝岐。然為御山嶽鉢形。其外攻亡數箇所敵城。既向瀧山。放火必然之由。頻告來之間。為其手合。集郡中兵卒。凌敵雙言中。速亂入武陽。欲抽無二忠信。不憑神明加彼。臨戰場。爭能得勝。伏願大菩

護

薩感應真實懇念合金剛力無異  
儀打入敵國者勵隨分軍巧此時信玄  
以一團扇決勝一時惡讐邪謀悉曝於  
軍門味方勇兵皆振威陣頭實上歡臣下  
樂再三五有年早款擊壤必聽童謡至  
求願成就者今度信茂所著諸武具

歌

列傳功言一石卷卷之三

馬西令奉納之於凝信心可奉抽精所丹  
誠者也仍願書如件

于時永祿第十二年己九月言前兵衛尉平信茂  
士峯薩埵御寶毒

の加友丹後守と。甲武友の坊ある。上野屋不持とて  
星と守らせ。其のいふ勢二百餘騎。安率と合勢九  
百餘人と引率。小糸が領地。武花園。八尾寺。小向とて其  
日の未明。小松坂と打越。約本野を出入り。討つ

以上  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

297

列傳功言一石卷卷之三

四

大将佐云。甲府と出陣は後。西と推通て。武名堀尾小名攻  
有る日又高まる。茲又武名堀尾の陣主。赤松守氏照の  
元末血氣の別將をれば。武田方より攻寄るその風吹と聞か  
る不也。二日又歩散ると言て是而待けり。武田勢定ぬ捨  
系筋より寄来ると思ひたる。然りて。小名攻より約  
本望をかき。大将の小山田方へ信房佐藤をりとの後を  
き守。氏照案をお送るといふも。小山田如者の儘乃勢を  
あたると。怖るふき守と。先軍隊とあるふ。約本野より武方  
あての。戸取山究竟の切取られ。いふと紅切敷と眼下に引付て。不  
も。さ。付れんとて。老臣横地監部。布衣出陣。遣兵二百餘  
騎。雜兵二千餘人をね。九月晦日の夜。堀山と打ち。大月系より

叩

問者

敵

して不勤攻と推止。戸取山進くと進向ひたる。武田方。小山田  
佐藤の急て出板と。道筋は伏せけり。夜は走て是と告  
告。お國の守と。敵の方便と知せり。わど。佐藤敵と  
見と。徒裏と。彩のう。わど。如きれば。然と。赤松守。か。つて。敵  
と。お。國。小。引。と。せん。と。て。戸。取。山。と。せん。とも。せ。約。本。野。より  
川系宿まをり。二百餘騎と。み。み。お。か。四十騎。宛。又。焼。く  
と。く。備。外。候。と。き。く。と。見。せ。し。り。に。敵。勢。戸。取。山。の。七。八。町  
と。く。と。と。と。付。れ。と。告。る。あ。ど。小山田佐藤。討。合。の。敵。と。軍  
使。と。み。み。此。候。又。奇。計。を。傳。へ。る。高。又。旗。布。と。刺。て。自。ら。外  
山。又。取。り。し。雲。霧。格。の上。が。如。く。な。忽。山。頭。へ。押。上。り。旗。旗  
と。旗。と。翻。ひ。ま。さ。堀。山。勢。是。と。ん。と。殺。共。方。と。今。の。進。む



破る 北条勢 小山田 信茂



川内カ巴二冊卷之三



又八單丁言一石原卷之三



又敵

と眼下に討たれたの方便を爲態と山をねだりて。川  
 系宿を下居く。敵の山際迄く寄つたが成るに  
 遠又旗本を引く。戸取山小攀。且を雲の渡をり  
 是を討つ。從あが戸取山を取事。早にこれに  
 知て山際又寄る。あふのほるまはば敵先  
 諭て。小山田又眼下に放せん。速速緩急節を  
 うべして。佐茂十方の勝利を得り。抑亦を雲の渡  
 と云ハ。勢を一まくと組て。別くは依て。雲の將集  
 やむ。雲の將は飛散あが如く。集合難散有るを  
 要と見。且小勢を大軍にあつらん。いふ雲の將  
 又如く。先後又山をあて。敵と平原をえ下り。我勢乃

師

え

敗走ると。氏照の良堂。所村係去傍尉。全指平ら  
 尉と始。一人高千の勇士共。あまの血戦。我  
 と争へて討死。小山田勢は猶も来と。逃と追事  
 了あ。あつたお捕て。首と獲り。二百六十一級。佐茂  
 病て。帥とあ。督人ると休め。諸軍と労ひ。物始吉と  
 怪びつ。依とちて敷正くと推出し。不動坂。首隊とあ  
 諭。然山とく進め。目覚しかりける。傷あ。嗚呼佐  
 茂。寡とん氣を破り。客我あ。主兵と討。智保雲武  
 後中。小勢を賞。今共奇討と惟に。始山方。寄  
 の乃助と聞より。戸取山と取て。寄ると眼下に控  
 軍隊と使る事と。佐茂疾も来し。却而共山勢

武田勢攻瀧山つたに。武田家たけのうゑの祥先しやうせんに向ふむかうもあらある。福ふく。甲の。勢せいの推おし進しんとしもも只ただよよりり而しもも互たがひけるあひ。先まずさ道みち筋すぢ。本もと郷こ。山やま。形かたち。紀よ。守り。城し。筋すぢ。右みぎ。小こ。田た。藤ふじ。系けい。寺てら。尾お。等らう。のの。人ひと。とと。互たがひ。首くび。西にし。面めん。をを。山やま。住す。戸こ。小こ。ああ。うう。にに。後のち。呂ろ。監かん。干かん。地ち。武田勢攻瀧山。城じやう。事こと。

江

富永劫とみながせきやく。四良しりやう。左城さいじやう。と。これこれ。も。遮さ。るる。ここ。とと。又また。渡わた。りり。然しか。んん。獨ひとり。外とほ。方はた。強かぢ。正ただ。者もの。六む。々ず。小こ。居い。墨すみ。とと。搦な。りり。ああ。りり。れれ。伝でん。云ん。をを。一ひと。遮さ。りり。とと。八は。悽せ。のの。要えい。害がい。をを。引ひ。籠かご。りり。前まへ。方はた。橋はし。とと。燒やく。落らく。しし。乱らん。杭かう。送そう。茂もう。本もと。をを。おお。てて。堅か。固こ。とと。搦な。りり。待まち。りり。甲の。州しゅう。勢せい。のの。田た。川がわ。石いし。見み。守り。於お。本もと。某な。等らう。がが。新しん。川がわ。のの。墨すみ。とと。攻せ。めめ。るる。とと。龍りゆう。のの。海うみ。底ぞこ。よりより。回まわ。りり。がが。如ごと。きき。猛もう。勢せい。とと。六む。々ず。小こ。推おし。束たき。之の。如ごと。きき。遮さ。りり。六む。々ず。のの。橋はし。をを。制せい。切せ。処と。又また。引ひ。入い。るる。天あま。鳴な。唯たが。雄ゆう。とと。決き。まま。んん。とと。勇ゆう。威い。とと。示し。てて。整ととの。りり。とと。伝でん。云ん。氣き。がが。なな。るる。奴やつ。哉や。免ゆる。すす。とと。一ひと。也なり。之の。守り。りり。居い。よよ。とと。六む。々ず。をを。赤あか。捨すて。池いけ。上かみ。又また。推おし。進しん。同どう。蓮れん。宗そう。のの。池いけ。上かみ。寺てら。とと。近ちか。捕とら。せせ。んとんと。ああ。りり。也なり。けけ。寺てら。

控

甲州身延山の末子として、寺僧早速と系傳を拜すと  
 欽然ひくわ。佐玄許客也。却ては寺僧と啓めして。矢野の  
 後又舟を浮。箱毛の平乃又押返て。箱毛十六郷を放火  
 せしる。室より傷兵遣守佐房の隣國の押して佐房牧馬  
 辰城志よりくわ。け交佐玄小田原乱入と心えりくわ人の命を救  
 の推名肥希。日向考陸也。四百五十騎を討て強兵。身は僅に十騎  
 と引いて。大お佐玄の功を慕てお出なる。武内松山を遊兵。拜  
 團而云々。今般の由出る。大款の民安との由致され。八面山の  
 んとふり。お氣色も不離。由終て慕て。牧馬の武功の常士共  
 と強し。用心要圖又佐房をいと言止はれ。佐玄佐房は。實は中  
 能賓客と儲りて。お安せられ。近習の面人作て。佐房に食をせられ

謂

ける。名将の良佐と也。一の事は也。上と。諸軍感涙とぞ  
 催しなる。佐房も面目お余りてぞうん々。そまよりの所と旗  
 と。佐房。能山近き隈は。本段と居られる。山田たき  
 耐佐房。戸丸山の致又お捨。武威軍として馳走。軍の次第  
 致之上。お佐房の首と實檢又。佐玄大に感悦あり。佐  
 房兼の子苦と遠征。途中に武略の例も勲功。若子の面との  
 手本にぬべれの合致也とて。殊に賞兵。取敢に感懐。長刀  
 添てぞ振りなる。佐房生年廿七。此の良策と。大款と破  
 いた。寛又名譽の常士也と。佐房舌と突くと感。此の佐  
 云は。佐房の誠と攻落し。佐房を定られて。四良福  
 親と大将小令せらる。そく舍身孫六。入乃道遠。新小山縣。三々討

續

お

昌宗と指副て秋の後詰と押の爲に彼を遣ふ。又後藤景直は  
 勝頼諸軍と引て。就山の城に押寄。十重二十重に圍を息と  
 もつて攻め入り。城兵も度と彼られども。手銃砲のまご  
 せぬ勝て。矢狭るるに織り合。奇よと船小お落し  
 されば。容易小攻にたり。もくぐりける。されども。名小  
 あん武田の猛率。鉄丸飛来と。もせぬ。堀跡を失と  
 と押寄。熊手薙強とん。おかけく。先なる勢の総角成の  
 被官に引つた。孫重を引く攻詰。竟小の曲輪を宗  
 元より。城将小条隆興守氏照。大副の常将されば。世も屋  
 せぬ。二の丸乃多門は。お上り。言勢小おりける。思率

君臣の義とあらん者い。予と佐又尚陣と枕うて討死而  
 尸と遊山の軍門に曝。名氏後代は尚よると。采牌と揚て  
 下知されば。素藩代の常兵共の籠うけま。いづでう返背よ  
 るべべ平。命と鶴毛の野は。我と金石の重よ守て。突  
 出つたを我ふり。奇よの大將は。素四良勝頼。生率北四  
 女小。は攻撃の熱大將うら。麻角の茶立おる甲と  
 月毛の豹の。五寸。五毛を織うる羽織と。後  
 と間野く画る。鞍と。おるま。りける。おるま。り  
 早り切る。大將を。款勢は。烈と。城難く。おるま。り  
 追ぬく。おるま。り。忽陣兵二騎と。突伏。倫と。難と。働

書

評  
お

うれける形勢なり。実勇方者ぞんえりける。茲又武臣所居の城  
 主竹屋山城守とて。大刻の勇士。能山加勢の爲、入城して  
 其が。勝頼の奉勅とて。是こそ者よせえし。四弟勝頼  
 あり。ごんされ天のま。我おんてはせん。と。越先三  
 尺をりちる大矢の陰と引捲て。勝頼を以て突かくる所  
 停素四弟先と陣作。速まもそく突出れ。越先。竹屋。併て後り  
 合追ら返ら。我ひりる。はりの竹屋。次第よりえ。能へは。後て  
 退り。勝頼。遠く追うけ。二階門のままで身入る。故味  
 方。佐々。競ひて。勝頼。沙岡。りの別と。いりり  
 されども。勝頼。退り。能へは。竹屋。も又  
 突出して。是り。合て。突合。勝頼。と。沙屋。其日。小陰。以

敵  
斯

合と。初合之夜。及び。りり。列。りり。我ひ。たり。佐云  
 け。越。と。中。ま。つ。く。い。ま。た。る。場。佐。房。と。召。れ。吾。け。夜。の。出。度。の  
 小。田。系。又。乱。入。して。氏。安。と。我。も。並。の。程。と。ん。せ。ん。と。而。也。是  
 恰。志。され。ば。か。稱。の。小。款。の。爲。又。勝。頼。冒。考。と。あ。と。付。せ。て。は。佐。云  
 が。名。稱。を。し。ん。先。二。の。曲。輪。を。ぞ。系。致。し。れ。ば。是。あ。て。事。の。足  
 證。今。の。卷。解。して。も。可。ち。し。ん。乎。と。あ。り。れ。ば。佐。房。承。り。実  
 佐。後。の。通。り。け。城。打。控。を。れ。は。甚。故。後。と。能。事。の。い。ひ。も。た。ん  
 只。傍。居。中。べ。ら。れ。ば。中。氣。を。し。は。及。び。い。と。云。れ。ば。能。く。軍。士。の  
 勝。頼。よ。り。勢。を。揚。べ。し。と。ぞ。命。せ。れ。り。勝。頼。先。と。領。達。て。急  
 攻。口。と。ゆ。る。供。軍。と。漸。く。引。揚。り。城。中。の。是。と。そ。如。何。なる  
 係。斗。を。初。め。申。し。結。合。怖。と。區。城。門。を。固。守。後。て。人。を。其。息。と。休。む。を。居。る

源平物語二篇卷之三

武田將士傳 初無傳在清門武勇事

武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳

小山田將士

武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳

(文)

~~武田~~

武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳 武田將士傳

ぞ後しける。まよりして武田勢へ。全田。妻田。岡田。京本。又  
 改し。又及河へ押出。小條方の大谷。常刀。改座と改座  
 幸津。赤川。河向。其攻入。因も大雨。改座。信玄。皆  
 あり。陣營。信玄。常刀。結。是。日。小。河。川。指  
 快晴。あぞ。及。び。なる。然。ども。赤。川。河。向。川。又。野。野。水。く。さ。漲。り  
 増。て。激。浪。岩。を。侵。し。け。ま。び。輒。く。軍。勢。と。交。う。れ。ん。と。さ。る。ひ  
 増。と。と。流。緩。區。々。赤。川。折。り。是。輕。隊。の。若。子。の。中  
 又。初。麻。傳。右。衛。門。尉。將。茶。の。弱。又。香。車。といふ。文字。と。書。さ。る  
 こと。お。と。射。向。廻。り。又。折。る。川。端。と。馳。走。り。け。る。と。信。連  
 入。及。道。遠。刺。是。と。さ。る。大。お。信。玄。の。赤。川。進。で。中。に。れ。る  
 初。麻。傳。右。衛。門。尉。事。深。く。出。立。て。い。が。寔。又。檀。常。の。者。を

叶 新

以。以。者。又。河。向。川。の。剛。踏。と。作。付。ら。れ。あ。り。つ。て。鉄。へ。う。ん。と。執  
 られ。信。玄。穿。り。ぬ。て。集。い。加。後。後。河。守。が。未。子。跡。の。信。玄。と。信  
 者。され。ども。予。常。士。初。麻。源。五。右。去。る。川。中。信。合。戦。に。付  
 死。した。ら。が。あ。そ。跡。と。後。せ。て。今。初。麻。と。名。の。う。せ。り。そ  
 實。又。後。河。も。昌。れ。り。信。玄。が。旗。印。の。武者。を。行。と。武。功  
 信。又。後。河。も。昌。れ。り。信。玄。が。旗。印。の。武者。を。行。と。武。功  
 た。也。然。れ。己。が。勇。力。小。慢。ト。諸。士。と。梅。り。取。り。信。玄。の  
 横。で。合。し。依。り。あ。り。渠。と。壘。せ。ば。且。香。車。の。進。で。退。く。が。り  
 弱。り。と。あ。り。己。亦。と。て。敵。攻。小。臨。で。進。で。退。く。が。り  
 い。之。味。と。指。お。ふ。ら。る。信。若。子。人。の。答。初。り。と。是  
 ふ。與。ふ。お。と。け。が。又。お。知。ひ。て。信。若。子。の。若。の。武。常。と

初麻乃右衛門尉とて。君命と蒙り。河内川の先渡とて。是れぞ  
 我々此の川に渡りて。先渡とて。二百餘人。川を又進み。傳を  
 下知と傳て。日。晷曉形。又る。狐。跡。論。と。踏。て。三。途。へ  
 乘。下。り。て。小。碓。と。名。づ。け。て。る。の。此。と。川。に。入。り。て。小。碓。軍。出  
 率。の。ま。れ。ま。と。れ。能。餘。の。柄。と。れ。遠。へ。引。る。す。り。て。後。ろ。へ  
 か。か。り。て。己。が。又。は。振。る。べ。う。に。力。を。互。あ。り。て。向。ふ。の。上。り。場。ふ。を。と  
 付。じ。と。さ。る。勢。を。味。方。と。り。く。川。は。頭。と。乘。入。り。て。さ。の。の。軍。勢。續。て。交

酒。向。川。の。腰。落。形。也。送。波。立。て。ぞ。後。ろ。へ  
 初。麻。子。向。の。出。立。の。馬。草。威。の。曹。小。碓。の。甲。と。猪。頭。に  
 着。せ。し。け。り。さ。る。小。碓。跨。り。先。先。小。碓。せ。け。る。が。假。揚。た。り  
 波。の。勢。と。侵。曹。の。碓。南。水。中。小。花。只。持。物。の。香。車。斗。ど。り。全。り。け。り  
 され。初。麻。些。も。い。り。す。水。尾。先。と。成。て。後。ろ。へ。一。人。も。後。ろ。へ。向。ふ  
 の。勢。ぞ。お。ら。げ。り。味。方。此。軍。勢。是。と。て。阿。那。香。初。麻。と。奉。勅  
 我。と。我。先。と。後。ろ。へ。行。き。旗。本。腹。後。は。至。重。安。と。後。果。て。岩。と  
 離。れ。て。立。緒。渡。と。列。せ。り。旗。旗。水。烟。と。翻。て。勢。蛇。吞。穿。に  
 昇。り。甲。曹。夕。陽。と。耀。て。星。斗。坪。地。又。列。と。り。小。碓。と。り  
 軍。令。嚴。ね。傳。り。け。り。未。幾。と。り。小。碓。利。の  
 也。と。り。然。る。説。士。猛。卒。明。あ。り。小。碓。と。り。あ。り。ん

川内カサニ...

...



鐵蹄激浪凌後宮  
 忽見去龍踏水赤若  
 帝馮河人豈吸切  
 名收在一教中

香雪

初鹿傳右門  
 酒匂川  
 先陣  
 みづ  
 図



初鹿傳右門

香車



及單言一尺長卷三三

思ひも新

康

意

と猛威充はしとどろくもりり  
 相見小田系又終る不依思武田伝去。伝磨路より藤土若西より  
 かの押寄りると。如くよりの徑を御の齒と引く如くりけし  
 城中騒動大方より。急軍強びとて。大將大京を夫氏安内氏  
 政と始。門家老の面。其外を小田系の旗下此諸將列と。而並  
 居る。村又氏安列中向ひ。今又武田伝去。大軍と。統衣束と  
 如何而防がし。各の屋敷と。言勢小やれ。云紫も終らざる小  
 た清門の氏忠。大乃寺後河守政勢。進出。内造の用。晴伝入。伝去  
 中と。お府を迫。推勢。頗大軍たり。雲云。客戦。わて。いへ  
 志。あて。怖る。ふも。及。ど。り。ん。れ。あ。つ。は。未。等。一。毛。衣。の。み。勢。と。引。て

康

意

馳向い有その一鼓と。分骨細身。良堂。於一足も引。けし  
 赤死は。ん。ど。ろ。く。若。い。熱。軍。と。引。く。跡。と。結。く。と。伝。去。が。勇。兵  
 と。破。る。つ。か。ら。伝。去。と。付。漏。し。の。り。ん。り。あ。ら。う。と。事。も。さ  
 お。中。の。ま。だ。石。巻。下。野。守。丸。獨。入。た。等。も。け。後。と。然。る。べ。し。と。さ。て  
 席。と。片。み。実。お。府。又。故。の。る。蹄。と。之。と。恥。辱。の。大。なる。あ。ら。い。ん  
 伝。去。も。作。り。死。と。必。而。修。依。板。口。より。赤。て。出。く。故。と。府。外。遠。く  
 追。は。り。り。ん。と。ど。や。り。と。老。臣。松。田。尾。張。守。入。た。小。條。氏。経  
 入。た。如。席。の。あ。人。等。も。故。に。膝。と。進。め。各。の。命。と。抛。る。氏。堂。の  
 志。勇。果。り。り。ん。と。亦。未。等。が。魚。を。と。や。さ。い。小。辱。と。捨。て。全  
 猪。の。利。と。取。と。そ。ま。要。と。存。り。く。押。武。田。伝。去。高。家。又。恨。と。合  
 の。由。と。去。る。六。月。卜。旬。後。乃。富。士。の。裾。野。又。出。張。始。並。山。三。路。以下

の所と働き。放火逃と。高家より頼むる所の  
 彼地諸城の勢。一万八千餘人のよ。又二万二千餘人の勢  
 と拵きしれり。今惟これに。是佐吉の策策あり。高  
 高城の勢とあへて散らせ。おひもよ。武花より。勢高  
 へ攻入んとのを計り。方今小田原と。甲斐の徳勢。而も佐吉  
 八千餘人よ。然も。機又。甲斐の徳勢。而も佐吉  
 軍死よ。向て合戦と挑ます。ふ利の至極なり。若。客兵と  
 備りて。味方より。佐吉。佐吉。奇計と。是と。わたり。鐵騎  
 兵と。一時。又。城と。赤。れん。よ。必定也。是。高家。危急。存亡。の。秋。お  
 ま。お。冷。危。の。死。いと。み。而。佐吉。の。祥。先。と。嫌。し。諸。城。の。味。方  
 と。召。集。ら。れ。し。九。二。万。餘。も。也。は。勢。と。高。城。と。引。能。心。成

ば 元

一致ありて。防戦と。二月。な。う。い。城。ん。事。絶。不。成。に。中  
 あり。諸。方。の。味。方。後。詰。も。也。且。甲。佐。の。軍。勢。を。路。の  
 長。波。又。氣。屈。し。云。粮。の。運。送。又。多。川。也。千。石。故。より  
 我。と。臨。も。味。方。耳。も。也。固。又。防。禦。と。あ。さ。い  
 じ。も。の。佐。吉。我。領。必。小。氣。き。し。軍。と。ま。ど。め。て。引。退。し。そ。何。智  
 略。と。ん。是。と。攻。止。ま。す。の。切。而。又。追。詰。て。討。れ。と。万。全。の。勝  
 算。と。い。り。め。と。云。案。と。拵。て。中。れ。ば。氏。安。又。お。是。と。言。に。て  
 高。城。も。後。一。突。と。な。れ。ば。急。一。色。長。佐。佐。板。と。ら。め。城。の  
 の。軍。勢。と。召。よ。せ。小。田。原。の。所。人。進。々。の。百。姓。女。喜。ぶ。も。あ。る。ま。た  
 悉。小。田。原。の。陣。中。ふ。ぞ。引。籠。ら。せ。け。る。叔。又。程。き。と。な。り。而  
 の。皆。民。も。い。そ。我。山。田。也。川。村。田。の。保。山。出。谷。と。い。め。て

可

ど逃入り

ヤ

小田系合戦之事 兵高伝房智略之事  
 武田の先鋒内後修理昌幸。直隸は成りて。追崩して付入。さうさふ下知されば。そまに追寺尾を後守。河田ま彦介。神名岡去と助。本城破河。河久保大學。久保信。矢島。矢本。長沼。原の勇士等。倫と誰を遣はせ。思ひくふ名す。城中より追く小出。一挙に

敵

寄手と追はらしと喰食と焼り。かま成て血戦とれ。武田方あも二度三度推却。周とあけ作攻ませく。火をたして。又川跡三左衛門尉幸を便じて。先攻の内後修理が方へ。遣て。遣とけ。いとけの。是。款と切。什麼と。さうけ。さうけ。内後昌幸。五。也と。解。早川跡三左衛門。是と。急で。伝。馳。以。返。款。あ。鉄。又。川。二。の。実。協。後。事。先。の。合。は。是。且。小。合。は。城。兵。必。死。と。戦。内。後。安。

城守をたて。城の守りつらうや。実小がらる烈戦の中  
ても程程と失ふ。又合戦の俵合とある。千由の  
や。実小智仁常と兼らうとて。諸軍威とある。り  
て武田の猛勢。飛くる鉄丸千もせ。一足も  
引どよ致然ひらま。さうりの城をたて。五足も  
ぬく。乱れ作。一足も城中にて逃入。只鉄丸千も  
あうけ。き矢と而色ど防衛する。は河内とある。の  
たれ武田佐重。小田原の俵合は押入り。早川口を  
にんす。湯本の風流と本陣と居る。熊と旗本此  
兵と換えんせ。れうけとども。敵のめりひらん。放て  
おて出づりなれば。士率小令而小田原中の云及ぶ。諸

先

士の宿舎まで。一勢もめど焼たれなれども。城中より  
きんも出で防ぐん。とる者やうりけり。能く甲兵勢の  
鋒陣と怖る。とて。皆一門と拵知ひける。さきども  
小條方と放り。氏安諸軍と殿下知を傳く。海は城と  
伝云とび。とと。きんも出でること。みられ。着々  
伝云が首と獲事。迫と逃と追て付た。今、皆の  
籠城も。故と屠の計畧ありとて。持とて。堅固  
こそいぢりなれ。からけるほど。城外の放火益熾盛して。東  
西南のよひらり。押小条家。早雲より以来。武威と震ひ  
関八路の大小名。交代而拜違。とる。小田原なれ。あたる。半  
建。瓦構。馬。紫陌。千。懸。茶。花。洛。ふも。おさく

押しつらうて。武田家より焼立ける。た忽焉とて  
 只着跡たる。噴原小は。如何きりけん  
 小条が長。松田尾強ち入たが宿所而已。焼の  
 伝云。是と眺て安う。彼邸子。後日。松田の  
 方利口の。小条方。後日。松田の。度云。吐  
 かる小事。又。足が。月。修。又。焦土と  
 らんと。云。これ。る。場。又。松田。進。出。日。友  
 の。改。而。初。合。戦。と。見。お。仕。る。而。也。あ。く。い。ん。せ。め。て。焼  
 張。る。松。田。が。邸。と。松。田。一。子。と。焼。松。田。の。何。卒。免。と  
 蒙。り。い。ん。と。ど。焼。ける。伝。云。軍。し。た。れ。你。が。武。田。家。と。い。ふ。

た。ふる。は。と。い。へ。ども。武。田。の。者。の。皆。松。田。の。子。孫。と。い。ふ。  
 た。い。今。終。の。子。勢。あ。く。松。田。が。宿。所。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。  
 見。る。心。り。は。と。い。へ。ども。松。田。の。子。孫。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。  
 仕。課。や。う。い。ふ。も。松。田。の。子。孫。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。  
 軍。中。一。枝。より。侍。一。人。は。萱。本。一。把。宛。松。田。が。宿。所。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。  
 作。付。と。い。ふ。も。松。田。の。子。孫。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。  
 持。つ。て。松。田。の。子。孫。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。  
 密。付。と。い。ふ。も。松。田。の。子。孫。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。  
 小。田。原。の。焼。跡。小。田。原。の。焼。跡。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。  
 き。の。途。筋。と。考。て。子。孫。小。田。原。と。い。ふ。今。こ。こ。と。い。ふ。

烈陣功詩二篇卷三

敵

やと首藤をばて。お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終

戦記の記述

極大  
天

肥後

敵

若手尉は敵より見咎て。追払りんとまを命なりを終  
物へ。諸思入程は、火付けの者、まを命なりを終  
お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終  
佐房も入らば、お出で防ぐんとそらりのまを命なりを終

戦記の記述

極大

武田勝頼  
殿武勇  
の圖

酒井十左門



武田勝頼

武田勢

武田勝頼

武田勢



て。築と搦ケ長八樓宮へ社来五死中とゆつせしと云れ  
 小条方。氏安又子と逃れ。諸軍是と傳事と。伝事と付  
 ぬぐぬの何首を末せり。とて。勇力立てて。唯候とぞなり  
 ぢん。是ハ先年と抄儀儀。小田系へ出入。まより搦ケ  
 へ来候せし。是時。小条方おれし。是事と傳候儀。維小  
 もせよ。は後。搦ケをよへん。とて。教あへば。若もまじ付  
 たり。の秘計と搦。年来け。秘と成候なり。はれ。はれ。はれ  
 搦ケ岡と傳候。とて。傳。假令。伝云。孫武の化。乃ち也。是。韓。信  
 孔明が再来もせよ。社内へ入。否。忽と擣り。後。將  
 降率。乃ち。一人も。残。度。付。今。交。の。勢。物。と。云  
 せん。と。小条方。小勇。進。事。限。遠。伝。云。是。と。傳。事。と。然

敵

迂遠さればこそ。予。然。と。敵。波。中。乃。と。云。れ。と。お。等。と。諸。軍  
 小令と傳へ。十月四日。又。相。名。風。系。と。成。候。と。云。と。傳。と。候。と  
 血。と。引。れ。る。小。殿。ハ。四。良。勝。勢。が。ち。小。勇。也。是。と。云。と。傳。と  
 備。儀。波。の。儀。事。と。と。と。破。竹。の。勢。ハ。若。後。小。敵。と。云。と  
 も。見。え。ざ。り。け。り。小。条。方。の。是。傳。と。眺。み。の。人。と。云。と  
 誰。追。付。ん。と。云。者。も。ま。じ。敵。宿。ケ。云。小。入。と。傳。と。云。と  
 物。と。ぞ。ゆ。り。と。云。と。松。田。尾。強。ハ。道。中。と。曰。故。勢。儀。余。小  
 赴。中。も。せ。よ。搦。ケ。云。小。傳。も。せ。よ。今。眼。前。と。傳。と。引。候。と。云。と  
 何。面。目。も。せ。り。作。而。人。と。對。せん。事。今  
 上。堅。固。な。勢。儀。成。候。と。云。も。只。は。時。と。傳。と。而。己。也。去。來。追。つ  
 て。受。前。と。云。と。松。田。が。一。千。二。千。餘。騎。一。月。又。強。出。る。中。に。も

敵

尾張守が長尾。酒井十左衛門尉。先は進んで追束まへ  
 修永四良勝形。自名はる公返して。しづかき来。敵中小  
 宗入。縦横に礙り切てとれば。後入勇士も切られず。あて  
 血残す。猪狩の酒井十左衛門。上と。太刀お三友小及  
 追おひて引れ。切崩して退け。小田系より酒井川  
 中でのる。血なまて返して。小田系も今の追を能  
 ず。退く。小田系も放り。松田が一も受留めて  
 引退く。城中の猪狩齒嚙と隊。嗚呼。佐吉が引れ  
 先。何如も。切交の味方より切て。今よ  
 果と。佐吉を。小田系。山角上野  
 守。修勢。中守。編修。修賀守等。各も勢と引く。

生首。小馳出。續て名は得。猛士。勇卒。雲霧の  
 突出。佐吉。討。一。急。諸。合  
 殺。加。後。猛。威。成  
 追。高。浪。山。大。東。中  
 突。異。是。小。条。勢。二。追。先  
 小。切。不。廢。猛。勢。は。武。田。勢。と。崩。人。と。敵。あ。る  
 其。間。本。家。の。猛。士。銳。卒。の。働。上。佐。吉。の。奇。計。計。策。等。の  
 次。卷。小。記。世。小。算。入。二。増。の。大。合。戦。と。是。也。 池

繪本烈戦功記後編卷之三畢

二  
あ  
り  
て  
す

